

赤い玉

楠山正雄

青空文庫

これも大^{おお}国^{おく}主^{ぬし}命^{のみこと}が、八千矛^{やちほこ}をつえについて、国^{くに}々^{ぐに}をめぐつて歩いておいでになる時^{とき}のことでした。ある時^{とき}摂津^{とせつ}国^{つくに}の難^な波^{なみ}の津^つまでおいでになりますと、見慣^{みな}れない神^{かみ}さまが、海^{うみ}を渡^{わた}つて向^むこうからやつて来^きました。命^{のみこと}が、

「あなたはだれです。」

とお聞^ききになりますと、その神^{かみ}さまは、

「わたしは新羅^{しらぎ}の国^{くに}からはるばる渡^{わた}つて来^きた天^{あま}日^ひ矛^{この}命^{のみこと}とい
 うものです。どうぞこの国^{くに}の中で、わたしの住^すむ土地^{とち}を貸^かして頂^{いただ}

きたい。」

と頼たのみました。命みことはしばらく考かんがえておいでになりましたが、

「この国くにはわたしの治おさめている土地とちで、あなたに貸かして上あげる場ば所しょといつて、ほかにありません。では海うみの中を貸かしましょう。」

とおつしやいました。

こういわれて、天あま日ひ矛ほ命このみことは、困こまつて帰かえつて行くかと思おもい

のほか、

「では海うみを拜はい借しやくいたします。」

といつて、腰こしにつるした剣つるぎを抜ぬいて、海うみの水みずをかき回まわしますと、

みるみるそこへりつぱな御殿ごてんが出来上できあがりました。大おお国くに主ぬしの命みこと

命とはそれをごらんになると、

「これはなかなかえらい神だ。用心をしなければならぬ。」
 と思つて、家来にいいつけて摂津国を固くお守らせになりました。

二

さてこの天日矛命というのは、もと新羅の国の王子でした。それがどうして日本へ渡つて来て、こちらに住むようになったか、それにはこういうお話があります。

新羅の国の阿具沼という沼のそばで、ある日一人の女が昼寝をしておりました。するとふしぎにも日の光が虹のようになって、

寝ている女の体にさし込みました。

すると間もなく女は身持ちになつて、やがて赤い玉を一つ生み落としました。ちようど女の寝ていた時、そばを通りかかつて様子を見ていた一人の百姓が、はじめからふしぎに思つて、どうなるかと気をつけていましたが、女が赤い玉を生んだのを見て、それをもらつて帰りました。

この百姓は谷の間に田を作つていました。ある日そこで働いている男たちの食べ物たものうしを牛に背負せおわせて運んで行きますと、ふと王子の天日矛おうじあまのひぼこに途中とちゆうで出会であいました。王子は百姓が人通りとどおのない谷奥たにおくへ牛を引ひいて行くのを妙みように思つて、

「これこれ、牛を引いてどこへ行くのだ。谷底たにそこの人のいない所

で、殺して食べるつもりだろう。」

といいながら、百姓をつかまえて、牢屋へ連れて行こうとしました。

「いいえ、わたくしはこの牛に、百姓たちの食べ物積んで引いて行くだけで、けっして殺して食べるものではありません。」

といいました。けれども王子はうそだといって、なかなか聴いてくれませんでした。百姓はしかたなしに、もらった赤い玉を出して、王子にやって、やっと放してもらいました。

王子がその玉をうちへ持つて帰つて、床の間に飾っておきますと、その晩、赤い玉が急に一人の美しい娘になりました。王子はその娘を自分のお嫁にもらいました。

そのお嫁よめさんは、毎まい日にちいろいろとめずらしいごちそうをこしらえて、王子おうじに食たべさせていました。そのうち王子おうじはだんだんわがママをいうようになって、しまいにはお嫁よめさんをひどくしかりとぼしたりしました。

するとお嫁よめさんも、とうとうがまんがでできなくなつて、

「わたしはもうこれぎり生まれうまれた国くにへ帰かえつてしまいます。もともとわたしはあなたのような人のお嫁よめになつて、ばかにされるために生うまれた女ではないのです。」

といつて、おこつて一人ひとりずんずん小舟こぶねに乗のつて、日にっ本ぽんの国くにへ逃にげて行いきました。そして摂津せつの難波なにわの津つまで来きてそこに住すみました。それが後のちに、阿加流姫あかるひめの神かみという神かみさまにまつられました。

新羅しんらぎの王子おうじの天日矛あまのひぼこは、このお嫁よめさんの後あとを追おつて、日本にっぽんの国くにへ渡わたつて来きたのでした。けれども摂津国せつつのくにまで来くると、大おおくにぬしのみこと国主命くにのみことに止とめられて、陸おかへ上あがることができなないので、しばらくは海うみの上うへに住すんでいました。けれどその海うみからは、どうしでも日本にっぽんの国くにへ入はいる望のぞみがないので、ぐるりと外そとを回まわつて、但馬国たじまのくにから上あがりました。そしてしばらく暮くらしているうちに、土地とちの人ひとをお嫁よめにもらつて、とうとうそこに居いついてしまいました。

この天日矛あまのひぼこの八代だいめの孫まごに当あたる人ひとが、後のちに神功皇后じんぐうこうごうのお母君ははぎみになつた方かたです。それから垂仁すいにん天皇てんのうのおいにつけて、はるかな海うみを渡わたつて、常世とこよの国くにまでたちばなの実みを取りとに行いつた

たじまもり
 田道間守は、あまのひぼこ天日矛には五代だいめの孫まごでした。

またあまのひぼこ天日矛はこちらへ渡わたつて来るときに、りつぱな玉たまや鏡かがみな

どのいろいろの宝たからを八品持やしなもつていましたが、この宝たからは、後のちに但たじま

馬国のくにの出石いずしの大神おおがみとまつられました。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：佳代子

2004年12月14日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

赤い玉

楠山正雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>